

三田市文化ビジョン検討事項

② 地域文化遺産の継承と教育

- 現状と課題
- 次世代への継承
 - ・体験する場づくり
 - ・教育との連携

1 地域文化遺産の現状

地域の主な地域文化遺産	現状と課題
<p>① 地域文化遺産の現状</p> <p>1) 伝統芸能保存会の活動 三田音頭保存会、御殿踊保存会*など <small>*御殿踊：三田市指定文化財</small></p> <p>2) 文化財として保護継承されている地域文化遺産 三田本庄百石踊／兵庫県指定 千本づき（高売布神社）／三田市指定 稲引・樽引神事（加茂神社）／三田市指定 お練り（波豆川芸能文化保存会）／三田市指定 三田市内に残る田楽 8件一活／三田市指定</p> <p>3) その他の地域文化遺産、年中行事、民話など （文化財として認識されていない地域文化遺産） ・三田青磁、鈴鹿竹器、三田太鼓 ・地域の祭礼・行事の文化 盆踊、神楽（獅子舞）、神輿、壇尻、布団太鼓、年中行事など</p> <p>4) 地域で守り伝えられてきた信仰の対象 寺院・堂 60か所、神社 53社</p> <p>② 学校教育と地域文化遺産</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学習（総合的な学習）として 母子神楽の伝承、一輪車活動（母子小） うど小屋組・うど作り（本庄小） 九鬼氏と三田（三田小） 三輪校区の歴史と地域の人々（三輪小） すずかけ台の大昔と今（すずかけ台小）、等 ・昔の暮らし体験、地域調べ学習（延べ15校） 	<p>○市民文化活動としての伝承活動 ○文化財としての伝承活動 ○地域文化遺産工芸としての伝承活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・焼き物体験・講座 ・作家等による復興活動 <p>○各学校の独自の取組・活動</p> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化による人材と後継者不足 ・若手離れ ・少子化による子どもの参加者減 ・伝統行事の簡素化 ・地域の祭礼の簡略化 ・必ずしも進んでいない実態把握 ・参加者の性別限定の見直し ・生活習慣の変化による行事の取りやめ ・地域の協力者（ゲストティーチャー）の確保 ・担当教員の異動による中断 ・学校別の取組

2 課題提起

① 地域文化遺産

- ・地域文化遺産の継承に関する地域活動の状況が市民に知られていない
- ・担い手の高齢化や若者の後継者不足

② シビックプライド*の醸成

- ・シビックプライドを育む機会が市民の生活や次代を担う子どもたちに提供されていない
- ・まちの魅力となる人や活動を持続的に生み出して行く仕掛けがない

③ 幅広い地域文化遺産の継承への視点

- ・既存の保護制度で支援しきれない地域文化遺産を、どのように継承していくか。
- ・見直すべき、しきたり（地域、性別、国籍など）があるのではないか。

3 あるべき姿

地域文化遺産を教育活動に活かしシビックプライドの醸成と継承者の育成をすすめる

① 各主体の役割（できることを探す、協力する）

- ・市民、各種団体、行政は自主的にかつ協力して、地域文化遺産の継承と教育の推進に取り組む。

② 地域文化遺産の保存・継承、観光資源として活用（今ある文化をつなぐ）

- ・豊かにある三田市の地域文化遺産について、情報発信を充実させることにより広く知ってもらい、保存や継承だけでなく活用して行く機運を高めて行く。

③ 地域文化遺産を発掘・情報発信し教育活動に活用（今していることをつなぐ）

- ・保存や継承、周知が不十分な資源について掘り起こし、地域文化遺産を積極的に教育活動に活用することにより、「三田らしい」市民の誇りの醸成や次代を担う子どもたちへ継承し、将来のまちづくりに活かして行く。

*シビックプライド：シビック（市民の、都市の）＋プライド（誇り）を合わせた言葉。「都市に対する市民の誇り」という概念で使われることが多い。日本の「郷土愛」といった言葉と似ているが、単に地域に対する愛着を示すだけではなく、「ここをよりよい場所にするために自分自身がかかわっている」という、当事者意識に基づく自負心を意味している。
シビックプライドがあれば、自分からまちに何かやってみようという気持ちが起きて、まちづくりの動機やアイデアが出てくる。自分がやったことでまちが少しでも良くなると、意義が感じられ、自分がやったという誇りにもなる。